

# 行政視察報告書

平成29年10月3日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 徳清会

議員 栗尾順三 ④  
議員 馬越裕正 ④  
議員 仁科文秀 ④

議員 森岡聰子 ④  
議員 東川三郎 ④  
議員 大山盛久 ④

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

## 記

### 行程

9月26日 14時～15時30分 岐阜県八百津町「杉原千畝記念館」

9月27日 9時30分～11時

美濃加茂市「里山再生プロジェクト」について

9月28日 9時～11時

下呂市「G-STAYプロジェクト」について

### 【1】岐阜県八百津町

住 所	岐阜県加茂郡八百津町八百津1071
電 話	0574-43-2460
視察案件	杉原千畝の顕彰について
期 日	平成29年9月26日(14時～15時30分)
応 対 者	別紙名刺のとおり
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	杉原千畝記念館

概 要	<p>【視察目的】</p> <p>6年前にその偉業がわかった笠岡市出身の茅原基治の顕彰をどのようにするか、行政としてのかかわり方はどうかなどを考えていく上で、6000人のユダヤ人の命を救った杉原千畝の顕彰事例を参考にする。</p>
	<p>●杉原千畝記念館は出身地の八百津町の小高い丘の上にあった。そこへいくには、最寄りのJR美濃太田駅からタクシーで40分という距離にあった。</p> <p>第2次大戦中、ナチスによるユダヤ人の迫害は激しさを増しドイツの勢力が広がるにつれてユダヤ避難民は激増。彼らの受け入れ先は次第になくなってきた。千畝がいたリトアニア領事館にも通過ビザを求めてユダヤ人が殺到したが、千畝は日本の本省の命令に背いてまでビザを発給し続けた。そして、結果として6000人のユダヤ人を救出したといわれている</p> <p>●記念館は、平成12年に建設された。この場所を杉原千畝を顕彰するための場所にしよう、「人道の丘」と名付けて平成5年までに完成させている。記念館も作りたいたと考えたが、予算がとれず建設が遅れた。公園には6.5億円、記念館には1.8億円のお金がかかっている。</p> <p>●笠岡市では、茅原基治について、まず地元の北川地区の機運の盛り上がり行政・まちづくり課から求められ、笠岡市としては積極的に動いていない。地元もどう動いていいか方向の決定に困っている。八百津町は、これだけの偉業をなした人が地元出身であることを大きな誇りとして、経費をかけてでも顕彰し、盛り上げたいとしている。そこに差がある。</p> <p>●この記念館の維持運営は町が直営でおこなっており、職員2人と臨時2人の給与を除いても、3500万円～4000万円の維持費がかかるという。入館者は年間4万人～5万人と多く、1000万円の入館料収入があるという。さらに年に1回、杉原ウィークを設け1週間に渡ってイベント、催しがある。テレビ番組で取り上げるほかに、リトアニアと相互交流をしており、中学生を20人程度毎年派遣するという。アウシュビッツへも行くようだ。このような積み重ねで、イスラエルなど関係各国からの参観者も多い。</p> <p>●今の笠岡市の取り組みとは差があるが、笠岡が文化を通して笠岡市を発信し、文化都市の仲間入りを考えるなら、杉原千畝と同様の偉業をおこなった茅原基治をアピールすることが必要だと痛感する。力をいれれば、ロシア人の笠岡訪問も十分にありうるし、全国からの来訪者も期待できる。</p>
	視察資料 視察状況写真 名刺

## 【2】美濃加茂市

住 所	美濃加茂市太田町3431-1
電 話	0574-25-2111
視察案件	里山再生プロジェクト（里山千年構想）について
期 日	平成29年9月27日（9時30分～11時）

応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	美濃加茂市役所
概 要	<p>【視察目的】</p> <p>笠岡市ではイノシシなどの鳥獣被害が増加し、山は荒れて耕作放棄地も増えている。美濃加茂市でも低い山が多く、住宅近くまで山が迫っているという ことで、笠岡市と状況が似ている。こうした点で参考になることはないか視察 した。</p>
	<p>●里山整備のきっかけは「有害鳥獣被害対策」であった。イノシシやシカが 住んでいる山を整備したいと考えた。竹やぶがどんどん増えてきたが、そこに とくに広葉樹のアベマキを植えること、増やすことにした。</p> <p>●計画は、「里山千年構想」と名付けられ、</p> <p>①里山整備（孫子の代へ残したい里山） ②資源活用（里山の樹木を価値あるものへ） ③里山活用（里山を人が集う場所へ） ④森づくり（孫子の代へ残したい里山） の4点での取り組みをしている。</p> <p>① 里山整備では、地域の里山を計画的に整備・維持管理し活用していく。 美濃加茂市と森林組合、所有者の3者が協議し、毎年3つの重点地区を決定 し、150人の所有者分の竹を切り、破砕している。地区の決定にあたって は「地域の里山は地域で守る」という約束のもとで意志を確認の上で地区を 決めている。また、人材育成として「里山整備講座」を開催し登録者が40 人いるという。チェーンソーの使い方などを学ぶ。</p> <p>② 資源活用では、アベマキの活用を推進し、「アベマキ学校机プロジェク ト」で2015年には林野庁長官賞受賞。</p> <p>③ 里山活用では、地域の子どもたちの遊び場に里山を使ってもらおうと 「森のようちえん」を展開。山で遊んだことのない子どもたちに子ども時代 の思い出を作ってもらい、将来は山を守る人にもなってもらいたい、心豊か な子どもになってもらいたいとの願いがある。</p> <p>④ 森づくりでは、竹林を広葉樹に復活させる植樹をおこなっている。タケ ノコ堀りイベントをして、子どもたちにアベマキなどを植樹してもらうこと もおこなっている。さらに楽天などの企業に呼びかけ、企業の地域貢献に結 びつけている。イノシシ被害も減っているという。</p> <p>●森林組合のない笠岡市ではすぐにできないこともあるが、問題になっている 竹林対策、子どもたちのための森のようちえん設置など、検討すべき内容も あった。いずれにしても、いつきの活動ではなく、息の長い継続した活動が 必要である。</p>
添付書類	視察資料、視察状況写真、名刺

【3】下呂市

住 所	下呂市森960
電 話	0576-24-2222
視察案件	G-STAYプロジェクトについて
期 日	平成29年9月28日(9時30分~11時)
応 対 者	別紙名刺の通り
視察状況	別紙写真の通り
訪問施設	下呂市役所
概 要	<p>【視察目的】</p> <p>日本3湯(下呂、草津、有馬)のひとつと自負する下呂温泉。下呂市がどのような考えで、どのような施策で観光PRをし、実績を上げているのか、笠岡諸島をかかえる本市で、参考になることはないか視察する。</p>
	<p>●G-STAYプロジェクトとは、下呂温泉を中心とした観光PR事業のプログラムであり、市内での滞在に魅力を感じてもらうための体験型のプログラムである。下呂温泉は全国的にも有名ではあるが、宿泊者が平成26年度約107万人と平成10年度にくらべ31%の減となっている。宿泊利用者が市内の各産業に及ぼす経済的効果は大きく、現在は危機意識が強い。</p> <p>●下呂市は、市内に高速道路インターもなく不便な場所にあるにもかかわらず年間100万人以上の宿泊者を維持してきたが、今後人口の減少、市場の縮小を懸念し、対策を立てている。</p> <p>●観光計画では、多くの市民、観光事業者の参加を得ながら、5年間でおこなうべき観光施策をまとめている。4町1村が合併した下呂市は、温泉をメインに宿泊してもらいながら、自然環境に恵まれた市内各地をめぐってもらおうとしている。沢登り、カヤック、酒造見学・飲み比べ、フルーツ狩り、稲刈り体験など、都市部からの誘客をねらっている。</p> <p>●対策がすべて成功しているとは思えないが、参考にしたいものに、観光ビデオがあった。子どものときに訪れた下呂市を、恋人と、そして結婚後に親や子どもを連れて計3回訪れるシナリオでストーリー性があり、下呂の良さ・自然を再確認する7分間の内容となっている。400万円の製作費とのことであった。</p> <p>●笠岡市には、31の島々、広大な干拓地・道の駅など、誇れる資源があり、日本遺産の認定もめざしている。「住んでよし、訪れてよしのまち」にしたいものである。下呂市の担当者から、白石島への修学旅行の話がでた。それだけ岐阜県でも知られているが、笠岡市では勧誘に力をいれていないように見え、残念である。</p>
添付書類	視察資料、視察状況写真、名刺



9月26日  
杉原千畝  
記念館

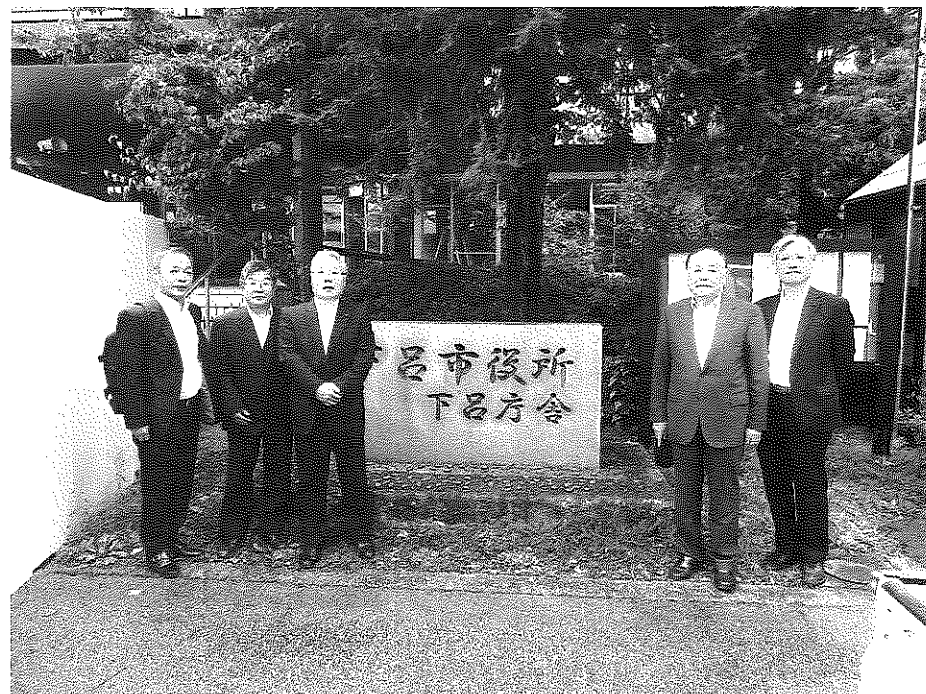
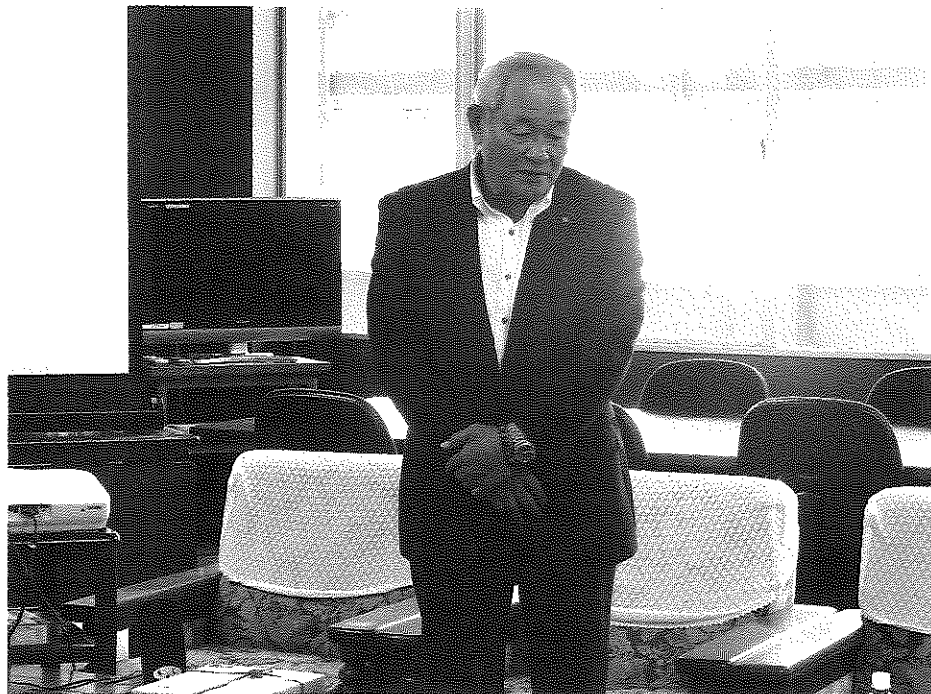






9月27日

美濃加茂市役所



9A280  
下呂市役所

